
2.12. データの作成・保管

浸水解析及び浸水想定区域図の作成等に使用・作成したデータ及び洪水ハザードマップ作成に必要なデータ等を、「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン（第3版）」に準拠し、「浸水想定区域図電子化用ツール」を用いて、地理情報システム等で利用可能な形式で作成する。

本業務では、次頁のフォルダ構成で保管する。なお、ファイル・フォルダの命名規則は図 2.12-1に従うものとする。

時系列浸水想定は、破堤開始時刻を0とし、2時間までは30分ピッチ、その後は60分ピッチとして排水完了まで作成を行う。

表 2.12-1 電子化ガイドラインに基づき市町村に提供するデータ一覧

	データ名	データ内容	データ形式	格納フォルダ	市区町村による利用場面
洪水浸水想定区域図データ	洪水浸水想定区域図 GIS・CAD データ	0.5,3.0,5.0m の階級区分の洪水浸水想定区域や家屋倒壊危険ゾーン等を図化したデータ	シェープ DXF	浸水想定区域図_SHAPE 浸水想定区域図_DXF	洪水浸水想定区域と避難に関する情報等の検討に利用
	浸水深（最大包絡） KML データ（コンター）	最大包絡の浸水深を0.5,3.0,5.0m の階級区分で示したコンターデータ	KML	MAXALL¥MAXALL_KML	避難に関する情報等の検討に利用
	浸水継続時間（最大包絡） KML データ（コンター）	最大包絡の浸水継続時間を示したコンターデータ	KML	MAXALL¥MAXALL_KML	
	浸水深・流速・浸水時間 GIS・CAD データ （メッシュ）	時系列ごとの浸水深・流速・浸水時間を図化したデータ	シェープ DXF	BPnnn¥BPnnn_SHAPE KENSAKU¥TIME_SHAPE BPnnn¥BPnnn_DXF KENSAKU¥TIME_DXF	
	浸水深・流速・浸水時間 CSV・NetCDF データ （メッシュ）	破堤点別・時間別の浸水深・流速、破堤点別の浸水時間（浸水開始時間、最大浸水深発生時間、浸水継続時間、排水完了時間）、標高、緯度経度の数値データ	CSV NetCDF	BPnnn¥BPnnn_CSV KENSAKU¥TIME_CSV BPnnn	洪水浸水想定区域と避難に関する情報等の検討の際に数値で利用
	浸水深（最大包絡） CSV・NetCDF データ （メッシュ）	最大包絡の浸水深、標高、緯度経度の数値データ（地盤高メッシュ（5m 等）で格納）	CSV NetCDF	MAXALL¥MAXALL_CSV MAXALL	
	浸水継続時間（最大包絡） CSV データ （メッシュ）	最大包絡の浸水深・流速・浸水継続時間、標高、緯度経度の数値データ	CSV	MAXALL¥MAXALL_CSV	
	浸水深（最大包絡）・浸水継続時間（最大包絡）・危険区域 NetCDF データ （メッシュ）	最大包絡の浸水深・流速・浸水継続時間、家屋倒壊危険ゾーンの種類、標高、緯度経度の数値データ	NetCDF	MAXALL	
	危険区域 CSV データ （メッシュ）	家屋倒壊危険ゾーンの種類、緯度経度の数値データ	CSV	DZONE¥DZONE_CSV	
	危険区域 GIS・CAD・KML データ（コンター）	家屋倒壊危険ゾーンを図化したデータ	シェープ DXF KML	DZONE¥DZONE_SHAPE DZONE¥DZONE_DXF DZONE¥DZONE_KML	避難に関する情報等の検討に利用
	メタデータファイル	計算条件等を記したファイル	CSV	aaaaaaa （河川番号フォルダ）	データ・計算条件の確認
	破堤点定義ファイル	各破堤点の定義を示したファイル	CSV	BPnnn	
	破堤点と水位観測所の関係 データファイル	破堤点に対応する水位観測所のデータ	CSV	KENSAKU	監視すべき水位観測所の確認
その他の説明資料	浸水想定区域図データ 電子化ガイドライン	浸水想定区域図のデータフォーマットを規定しているガイドライン（本書）	PDF	浸水想定区域図	参考資料
	浸水想定区域図データ 電子化用ツール	浸水想定区域図データ作成支援ツールの実行ファイル	EXE	浸水想定区域図	参考資料
	浸水想定区域図データ 電子化用ツール 操作マニュアル	支援ツールの操作マニュアル	PDF	浸水想定区域図	参考資料
	洪水ハザードマップ作成のための「浸水想定区域図データ」利用ガイド	市区町村向けに浸水想定区域図データを説明するガイド。	PDF	浸水想定区域図	参考資料

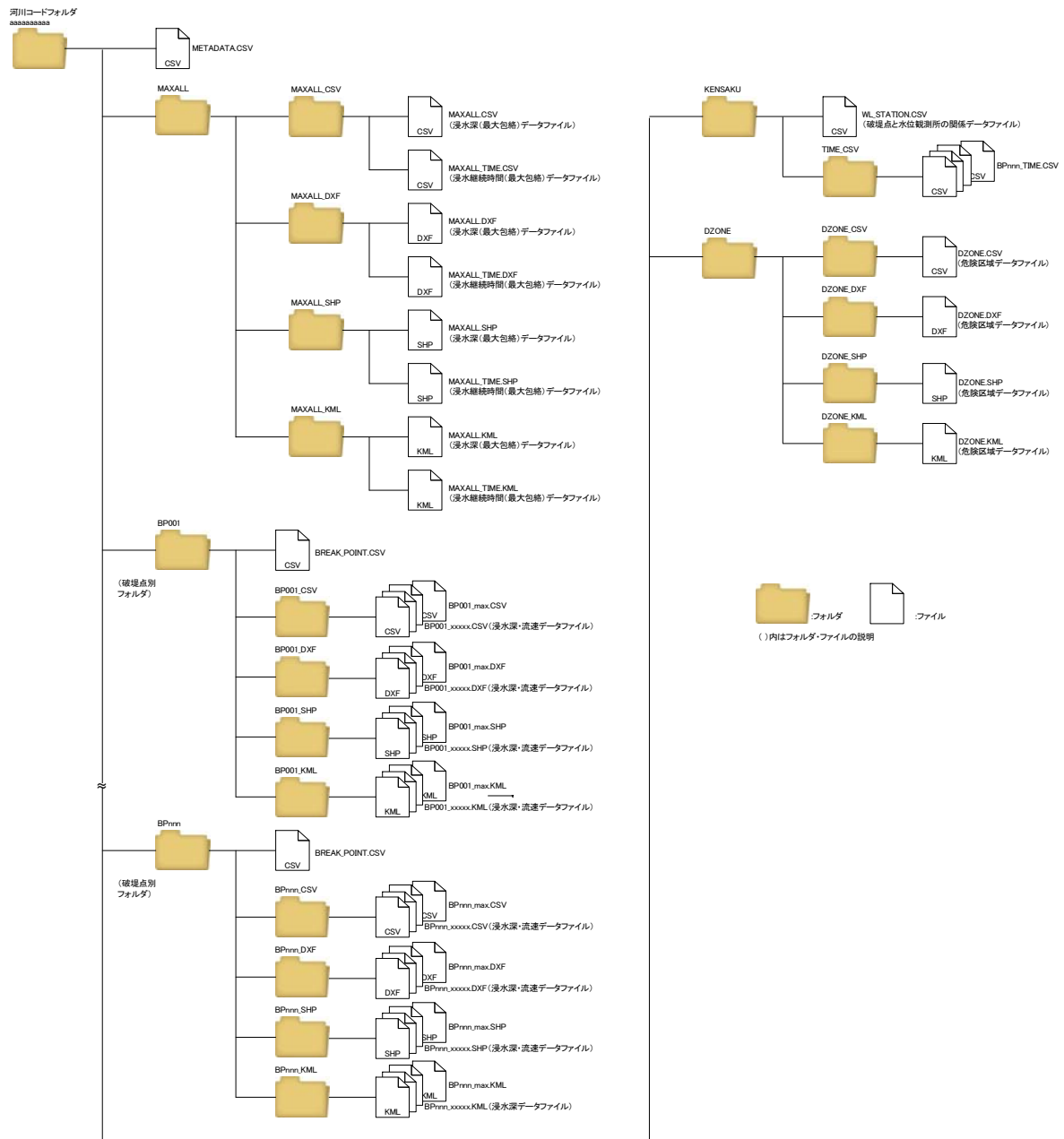


図 2.12-1 浸水想定区域図データのフォルダ構成

表 2.12-2 フォルダの命名規則

項目	命名規則
河川コードフォルダ 「aaaaaaaaa」	河川コード仕様書(国土交通省河川局 平成17年4月)に則った10桁の河川コードを入力し、これをフォルダ名とする。9桁数値の場合も頭に0を付し、必ず10桁で記載する(例:0123456789)。
破堤点別フォルダ 「BPnnn」	「BP」は固定とし、「nnn」には計算ケースの通し番号を入力する。 「nnn」の入力は0を前に追加して必ず3桁とし、計算のケースが10種類あれば、それぞれのフォルダ名は「BP001」「BP002」…「BP010」とする。
浸水深・流速 データファイル 「BPnnn_XXXXXm.CSV」 「BPnnn_XXXXXm.DXF」 「BPnnn_XXXXXm.SHP」 「BPnnn_XXXXXm.KML」	「BPnnn」部分は上記の規則に従う。 CSVファイルの「XXXXXm」部分は計算時間を分単位で入力し、30分後のデータであれば「00030m」、2時間後のデータであれば「00120m」のように、0を前に追加して必ず5桁とし、「m」を最後につける。ここでいう計算時間とは、破堤もしくは越流・溢水の発生からの経過時間とする。最大浸水深のデータの場合には、「max」と入力する。「BPnnn」との間に「_」(アンダーライン)を入力する。 「.CSV」「.DXF」「.SHP」「.KML」は全ファイルにおいて固定とする。
浸水時間 データファイル 「BPnnn_TIME.CSV」	「BPnnn」部分は上記の規則に従う。 「_TIME.CSV」は全ファイルにおいて固定とする。